

平成 26 年度 一級建築士設計製図試験の講評

課題：〔温浴施設のある「道の駅」〕

全体の計画は予想の範囲内であり、道の駅に求められる「休憩、情報発信、地域の振興と連携」の内容であった。設計上のサプライズはないが、限られた条件の中で建築を総合的にまとめる能力を求める課題であった。シンプルであったことから、難易度は標準で、図面の完成度は高かった。

出題のポイントを具体的に述べる。

①建ぺい率について

2階の屋根の形状を一点鎖線で図示するとあるが、この指摘は建ぺい率の採点をし易くしたものと考えられる。従って建ぺい率の採点は厳しいと考える。

敷地図より建ぺい率、延べ面積の上限を考えスパン割りすると、7mスパンで4×6(24マス)のグリッドとなるが、少し余裕をもたせるために25マスとしたい。

問題文(地上に屋外休憩スペースを50㎡以上設ける)とあるので、これを1マスに当てるとその上限が少し楽に納まる。

②2方向避難について

レストランと温浴施設は歩行距離が30mで、重複距離は15mと短くなる。内部は内階段を1つ、外部は避難バルコニーに外階段を2つ設け、すべてハートビル階段とした。なお、この2m幅のバルコニーは上記の建ぺい率に1mカウントされるので注意が必要である。

③敷地の周辺環境に配慮する

(親水公園や溪流で水遊び散策等をする) 従って、東(親水公園)、南(溪流)への建物からのアプローチを設ける。

④(地上又は1階の屋上にまとまったスペースで50㎡以上設け、レストランと一体に利用できるようにする)

従ってレストランは1階又は2階のどちらに設けてもOK。

⑤(吹抜け部分は梁を設けない構造とする)

スパン内で吹抜を設ける。

⑥設備スペースについて

延べ面積の7%が適正な設備スペース(屋内)であるが、今回は非常用発電機を考慮すると、9%程度となる。今迄の一級製図試験は7%程度のスペースは確保される問題となっている。

⑥(浴室の自然採光と自然通風)

脱衣室についてはライトコートで対処した。

2014年10月16日

—— 塾長談話 ——

コスモ建築塾